

たどえリセプトされても

ロボットとの闘わ

4年 田・玲さん

—ロボットが身近にいたら、どんな世界なのだね。—

私は大阪万国博覧会で石黒浩さんの「このかの未来」というアンダーロイドについてのパビリオンを見て、そう思いました。そんなときにこの本を知って、きょう味を持ちました。

私にとってこの本で一番心に残った場面は、図工の時間に主人公の愛が「ゆめ」というテーマの絵をかいじ、みんなが集まり上手だとほめられたといい、逆瀬川先生がその愛の絵をびりっと引き立てるところです。私は逆瀬川先生のせいで愛がロボットだと知れわたってしまったので、はうが立ちました。これがきっかけで、愛はリセプトされて分かれされてしまつことがかわいそうだし、もし柚果にもう一度会つても両方ともにしきができるなくなつてしまします。また、本当は医りよう用ロボットは病にかかった人のためなので、病というフライバーを言つのはぜつたが良くなないことだと思いました。先生だったら、どんな生徒でも同じようにあつかつた方がいいと思います。

そのあと、逆瀬川先生は「ロボットには、人間の心なんてわかりません。わかるはずありません」と言つています。だぶん、逆瀬川先生は、ロボットへの強いじつとや気味悪さやおそれがあるから言つたのかなと思いました。実さいに万博で初めてアンドロイドを見たときに、私は少し「うわー」と思いました。そのアンドロイドは機械みたいな動き方で、何をしだすかわからなないと思つたからです。ただし、私の身近にいる人がもしロボットだつたらと考えてみたり、全くこわいとは思ひませんでした。それまでじつしょに遊んだりして、性がくがわかるので安心できるからです。なので、たぶんこの先生の代わりに来て、まだ愛のことがわからない逆瀬川先生の気持ちもわかるような気がしました。今も色々なロボットがあるし、これからもさらに色々な種類が作られると思いますが、ロボットだからといって差別をせずに生きていくたいと思いました。でも、逆瀬川先生のようなロボットを好きではない人もいると思うので、ロボットとの関わり方を色々な意見の人があんなで考えていつた方がいいと思いました。